

情勢報告

「ビワキジラミ」に注意を！！ ～果樹部ビワ生産組合総会～



熱心に聞き入る生産者

8月26日、JA土佐あき果樹部ビワ生産組合が黒見集会所で総会を開催し、組合員17人が参加しました。

農業改良普及課室戸支所からは、近年、香川県や徳島県で広がっている「ビワキジラミ」について、他県での発生状況や生態等を説明し、防除対策を指導しました。

管内の園地ではまだ発生は確認されていませんが、生産者らは熱心に聞き入っていました。

今後も引き続き、農業改良普及課室戸支所は、JA等関係機関と連携しながら、ビワ産地の振興を支援します。

炭酸ガス施用で出荷量を増やそう！！ ～芸西支部ブルースター部会反省会～



まっと出荷本数が増えるかもしれん

9月1日、JA土佐あき芸西支部ブルースター部会がJA土佐あき芸西集出荷場で平成29園芸年度の反省会を開催し、8人の部会員が参加しました。

農業改良普及課からは炭酸ガスを施用した生産者と施用していない生産者との月別出荷本数の推移を報告し、炭酸ガス施用の有利性や栽培管理方法について指導しました。

生産者からは、「やっぱり局所で施用せんといかんみたいや」、「新しいハウスにもダクトファンを入れようか」といった声が聞かれ、炭酸ガス施用技術に対する知識を深めることができました。

農業改良普及課は、今後もJAや農業技術センターと連携して現地検討会や勉強会などを通じて花き類の環境制御技術の普及を図り、産地の発展を推進します。

GAP チェックシートで農業の点検・改善を！



まずは項目をチェックして
出来ていること、出来ていないことを
明らかにせないかんね

9月5日と21日に、農業改良普及課室戸支所は室戸市と東洋町の生産者8人のは場を個別巡回し、「農林水産省のガイドラインに準拠した高知県版GAP（生産工程管理）チェックシート」の目的や記入方法について指導しました。

生産者からは「毎月チェックシートに記入するのは手間がかかるけど、農業経営の改善につながるし、皆で取り組まないかんね。」といった声が聞かれ、取り組みへの意識を高めることができました。

農業改良普及課室戸支所は、今後もJAと協力して個別巡回や勉強会でGAPチェックシートについて説明し、集出荷場に出荷する生産者全員のGAPによる農業の点検・改善を励行します。

百聞は一見にしかず！ ～集落営農塾（ステップアップ）先進地視察研修～



ネギの出荷調製作業について
説明を受ける参加者

9月5日、農業改良普及課は第2回集落営農塾（ステップアップ）として先進地視察研修を開催しました。管内の集落営農組織や関係機関等10人が参加し、香美市の集落営農法人（農）ファーム西永野を視察しました。

参加者からは、「複式簿記・労務管理はどのようにしているか」、「ネギの出荷調製作業にどのくらいの人役がかかっているか」等積極的に質問が出され、有意義な研修となりました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して集落営農組織の発展に向け、研修会を開催します。

病虫害被害を出さない・広げない対策を ～穴内集出荷場研究会ナス部会勉強会～



日々の管理も忙しいですが、
先手必勝です！

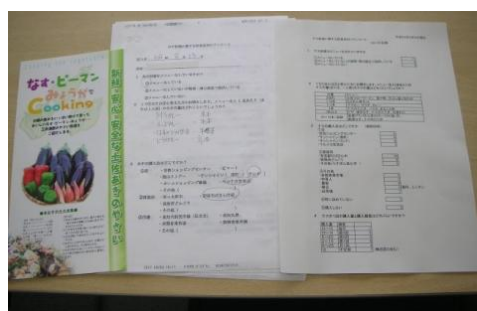
9月6日、JA土佐あき穴内集出荷場研究会ナス部会は穴内集出荷場2階で勉強会を開催し、生産者11人が参加しました。

農業改良普及課は、9～10月にかけて発生が予測される病虫害の防除対策を指導し、特に病害の予防防除の重要性を伝えました。

野外で天敵を飼育している生産者からは「今年はカメムシが多い。持ち込まんように気をつけないかん」といった声が挙がるなど、先手を打つ対策に前向きな姿が見られました。

農業改良普及課は今後、地区で近年問題となっているナスフザリウム立枯病の対策を重点的に指導し、収量の向上を目指します。(248字)

飲食店にアンケート調査を実施！！ ～ナス6次産業化支援チーム～



なすび記念日の認知度の低さにびっくり。
やっぱりPRは大事です。

9月6日、農業改良普及課はJA土佐あき本所で6次産業化支援チーム会を開催しました。

農協改良普及課は、先月安芸市内の飲食店を対象に実施したアンケート調査の結果をとりまとめ、報告しました。

アンケート（36店舗実施）の結果から、17店舗でナス料理がメニュー化されていることがわかりました。また25店舗から取り組みのPRに協力できるとの回答を得ることができました。次回は、飲食店の「安芸ナス」のPR方法等を検討します。

農業改良普及課は、今後も6次産業化支援チーム会の活動を通じて、ナス生産者（安芸市施設園芸品消費拡大委員会）や飲食店と連携して日本一のナス産地をPRします。

ハスモンヨトウを捕獲しよう！！



トラップを設置する芸西小学校児童

9月6日、青年農業士芸西支部が主体となり、芸西小学校の3年生45人とともに、今年で13回目となるハスモンヨトウの捕獲トラップを設置しました。

農業改良普及課から、芸西村の農業や捕獲トラップの仕組みを事前に説明した後、小学生、青年農業士及び農業改良普及課と一緒に設置場所を巡り、自作の捕獲トラップを48か所に設置しました。

小学生は、作業中にトラップに入れる誘引フェロモンの匂いを嗅いで「なんにも匂わんねえ」と不思議そうに話していました。

農業改良普及課は、今後も青年農業士と連携し、「子供に地域の農業を知ってもらうための活動」を支援します。

高知大学生が安芸地域の施設園芸を学びました



温存ハウスでタバコカスミカメを
探す学生達

9月6日、高知大学の集中教育科目「高知の農業と自然を実践して学ぶ」の一環として、学生27人が安芸市のIPM栽培技術を研修しました。

農業改良普及課は、生産者が天敵昆虫を利用するようになった経緯や土着天敵利用の実態など、安芸地域の施設園芸の現状について説明しました。

その後、学生達は実際に天敵温存ハウスに入り、ハウス内の暑さに驚きながらも、ナスやピーマンで利用される天敵のタバコカスミカメを観察しました。

農業改良普及課は、今後も管内の環境保全型農業のPRに努めます。

ラストイヤーに導入を！ ～安芸地区環境制御技術普及推進PT会～



意見交換を行う農業改良普及課と
JA営農指導員

9月13日、平成29年度第2回環境制御普及推進PT会がJA土佐あき本所2階会議室で開催され、農業改良普及課とJA土佐あき営農指導員ら16人が出席しました。

農業改良普及課は平成29年度環境制御技術普及推進事業の進捗状況を報告し、来年度の推進方法等について意見交換を行いました。

平成30年度が環境制御技術普及推進事業の最終年度であり、「事業は30年度がラスト」をキーワードにし、系統外生産者や若手生産者、増収効果の見込める生産者を中心に環境制御技術の導入を呼びかけていこうと前向きな意見が出ました。

農業改良普及課は今後もJA等関係機関と連携し、環境制御技術による増収効果のPRを継続し、管内の環境制御技術の導入率向上に取り組めます。